

# 和地ひとみレポート No.158

ベストセラー『里山資本主義』著者 藻谷浩介氏講演会  
東大和市は東京都下の優等生！



## ■「ここがふるさと・

### 東大和の魅力発見・発信し隊」事業

…5月16日(土)の午前中、中央公民館ホールにて、「夢おこし!まちおこし! in 東大和～どんなまちにも宝はある～」というテーマで講演会が開催されました。当日の講演者は(株)日本総合研究所 主席研究員でベストセラー「里山資本主義」の著者の藻谷浩介氏。当日は多くの市民の方が参加されました。

…今回の講演会は、今年度から3年計画で実施される市の新規事業「ここがふるさと・東大和の魅力発見・発信し隊」のオープニングイベントとして開催されました。この新規事業は東京都の「多摩・島しょわがまち活性化事業助成金」を活用して行うもの。「多摩・島しょわがまち活性化事業助成金」は「市町村が計画的に実施する、多摩・島しょ地域にある『まちの魅力』を通して住民の地域への愛着・誇りを高め、まちの活性化につながる事業を支援することにより、多摩・島しょ全体の魅力を高めること」を目的とし、東京都は申請した各市町村に年300万円を交付します。交付を受ける市町村はその助成金を活用して

- (1)「まちの魅力」の向上に資する事業
- (2)「まちの魅力」の発信に資する事業
- (3)「まちの魅力」の活用を資する事業

に該当する新規事業をH27年度から29年度で計画することが条件です。

…東大和市もこの助成金を活用し、中央公民館を中心に「ここがふるさと・東大和の魅力発見・発信し隊」と題した新規事業をスタートさせました。「ふるさと東大和の魅力を発見・発掘し、市の魅力を内外に発信していくため、市民グループ等の人材育成を目的とした講座や研究会を開催する」というこの新規事業は、今年度をHOP(ホップ)、H28年度をSTEP(ステップ)、H29年度をJUMP(ジャンプ)の年として計画されています。(主な事業内容は右記参照)

## ■辛口藻谷氏の東大和の評価は

…藻谷氏は平成合併前の3200市町村、海外59カ国を自ら訪問し、地域特性を多面的に把握。そして地域振興や人口成熟問題について研究しています。その著書で披露した理論「里山資本主義」で注目を浴びて、各地で講演を行っています。講演では政府や行政が出している数字やデータに基づき、講演先の自治体の実態を分析。藻谷氏いわく「私は辛口。講演先では『ぐうの音もでない現実』を知ってもらおう」ことが多いようですが、今回の講演は「東大和市は東京都の中でも優等生なので・・・」という言葉で始まりました。

(裏面に続く)

※中央公民館のパンフレットより

※ご興味のある方は中央公民館にお問い合わせください。

TEL: 042-564-2451

### ■講座「東大和の魅力発見・発信し隊、出発！

～まちおこしの仕掛け人基礎講座～

⇒まちおこしについて学ぶ講座

- ・5月28日～7月9日 木曜日 14:00～16:00(全6回)
- ・中央公民館にて
- ・講師:池田真紀氏  
(東京農業大学非常勤講師・地域活性化システム論)
- ・保育については16名までOK。

### ■講座「東大和の魅力発見・発信し隊

ネット発信班、こちらも出発！」

⇒ホームページ作成の技術を学びながら、受講者が協力して東大和の魅力を満載したポータルサイトを完成させる

- ・6月～来年1月 月1回程度 土曜日 10:00～12:00  
(全8回)

・中小企業大学校、中央公民館にて

・講師:田村信之氏 ((有)サイコム 代表取締役)

### ■中央図書館でも「夢おこし!まちおこし！」

⇒既に活動している市民グループの紹介など

・展示期間:5月13日～6月8日

## 【今後の計画について】 ※企画中

### ～HOPのH27年度後半～

⇒魅力の生かし方講座「まちづくりの先進事例に学ぶ」(仮)  
9月～11月に地域活性化の実際の事例を聞き、東大和らしさを考えることにつなげていく。

⇒魅力発見講座「ワークショップ 東大和編」(仮)

市内で魅力を探し、一夜トコトン討論なども企画中。

### ～STEPのH28年度～

1年目の成果を踏まえて、魅力発信対象、手法を絞って具体化。

例えば「魅力発信の手法及び仕組みづくり」「ホームページの充実と運用」「アンテナショップの運営について」「ガイド養成について」

### ～JUMPのH29年度～

2年目の成果を踏まえて、市民自身が自立した活動を発展、継続することを目指す。

例えば「街歩きイベント」「アンテナショップの運営」「ホームページの充実と運営体制の確立」

…藻谷氏が東大和市を評価されているポイントは以下の通りです。

⇒都心からそんなに離れていないのに、多摩湖など自然が豊か。東大和市と同じくらいの自然がある「東京都内の市」は青梅市だが、通勤などを考えると、青梅市は都心から離れすぎている。

⇒駅のそば、自宅のそばに「市民農園」がある環境は都心からの距離を考えると貴重。

⇒多摩湖を最北に、東大和市は全て南斜面の地形。実は、東京都内には南斜面は少ない。

⇒少子化が問題となっているが2000年から2010年の間、14歳以下の人口が横ばいなのは素晴らしい。

⇒便利だと言われている立川市は地価が高騰しすぎている。でも、東大和市から立川へは買い物などすぐに行ける。また、区部も地価が高騰していて、若い世代はなかなか住めない。よって、お年寄りばかりが住んでいる一戸建てなどが杉並区、中野区には多い。同じ金額なら、東大和市に住んだほうが良いと考える若い世代が多くなり、選ばれている。

…そして、「東大和市民は『東大和は田舎だし、何もない』」と思っている人が多いようだが、東京都である東大和市はまったく田舎ではないし、何もないというのは雰囲気だけだ。『周りの空気』や報道などで入手する加工された情報で思い込んでいるだけ。きちんと数字を見て実態を把握することが大切」ということを、様々なデータで披露されました。

## ■止められないこと、できること

…上記のとおり、2000年から2010年の過去10年間の東大和市の14歳以下の人口は横ばいです。一方で、人口が毎年増えている東大和市の全人口を見てみると、実は増えていたのは65歳以上の人口だけ。国立社会保障・人口問題研究所の予測では今後もこの傾向は変わりません。この現実に対する藻谷氏の考え方は、⇒65歳で区切ったのは年金を受給しているか、していないか。年金が東大和市独自のものなら、65歳以上の人口が増えれば破綻するが、年金は国全体のもの。元気な高齢者が増えれば年金受給者の消費は地域にとって収入源となる。

⇒病院にかかるようになるのは75歳以上が多いが、75歳の70%は元気。高齢者が増加すると医療費が増えると単純に考えることが多いが、高齢者が自然豊かな東大和で元気に暮らせるようにすれば、問題はない。

…日本の中で、東京だけが人口が増えているといわれていますが、これも高齢者の人口が多くを占めています。地方から東京にくる若者も多いだろうとう人もいますが、地方の若者が減っているのですから、東京に

入ってくる若者も減少するのは当然です。

…このような状況に対し藻谷氏は「止められないこと、できること」を示されました。

### 【止められないこと】

⇒今の住民が毎年1歳ずつ歳を取っていくこと

⇒(多くの)若者が地域外に就職して出ていくこと

### 【止められること】

⇒何人子どもを産んでも親の損にも負担にもならない地域を作れば、出生率の低下は止まる

⇒出て行った若者が、出て行ったきり二度と帰ってこないという状況も工夫次第で止められる

### 【むしろ前向きにできること】

⇒子育てしながら働く若い世代を呼び込める

⇒無病息災で天寿を全うする高齢者を増やせる

⇒来訪・滞在・短期定住する外来者を増やせる

## ■それぞれの役割でポテンシャルを伸ばす

…講演の中で示されたグラフの中には、縦軸が65歳以上の人口の増加率(%)、横軸が15歳から64歳の生産年齢の人口の減少率(%)で、今後30年間、東京都の各自治体がどのような傾向にあるかを表したものがありません。東大和市の65歳以上の増加率は約50%強、生産年齢の減少率は約16%で東京都下の中では2番目に良い傾向の自治体です。この数字より良い結果が出た都下の自治体は東村山市のみ。しかし、この数字はあくまでも予測です。65歳以上の人口の増加を減らすことは難しいでしょうが、上記の「むしろ前向きにできること」の一つでも多く実現できれば、生産年齢の人口の減少率は変えられます。

…講演の最後に、少子化への取り組みを積極的に行い、2040年までの各年代の人口が横ばいと予測されている長野県の下條村の例を藻谷氏は挙げました。また、厚労省が発表している一人あたりの老人医療費が一番低いのは長寿で日本一になった長野県とのこと。自治体と市民一人ひとりの取り組みで予想される数字は変えることができる良い例です。

…今回の講演では、感覚ではなく実際の数字、データで東大和市のポテンシャル(潜在能力)を示していただきました。少子高齢化、人口減少は全ての自治体の課題ですが、東大和市の現状は「マイナススタート」ではありません。正直、講演を聞いていて東大和市の可能性の大きさにワクワクしました。

…この「東大和市のポテンシャル」をどこまで活用できるか。行政がやるべきこと、最初に紹介した事業など市民が取り組むべきことを、それぞれの立場、役割で実現していけば、東大和市は益々「選ばれるまち」「住んでいて良かったまち」になると再認識しました。

市政、議会について「自然体」「ざっくばらん」にレポート。駅前配布するレポートは毎回、最新号です。

「私たちの身近にある市政、市議会。伝えることがスタートだと思います。」

【プロフィール】



1970年 東京都北区生まれ。父の転勤で1歳から群馬県で育つ。幼稚園からカギっ子。リーダーシップを発揮し、小学校で児童会長、中学校でも生徒会長を務める。大好きな音楽を究めようと武蔵野音楽大学に進学、卒業。卒業後は群馬の山奥の小学校で臨時教諭として担任を2年勤め、新しい試みで授業を活性化させ「元気印の先生」として保護者・生徒から親しまれた。／「学校」の外の一般社会で挑戦しようとベンチャー企業の(株)シートゥーネットワーク(※スーパーマーケットを経営。店頭公開から一部上場、外資系企業に転換)に社長秘書として入社。のち店舗現場に異動、同社で初の女性店長となる。その後、人材開発部長を拝命。／「人を活かす」経営を学ぶため一念発起しカナダに留学。外から見た日本の将来に、漠然とした不安を感じる。帰国後は、不動産投資会社にて企画業務、税理士対応、広報などに従事。2011年4月、初当選。現在、市議会議員2期目。顔の見える議員として、日々奮闘中。

東大和市 市議会議員

和地 ひとみ

■ 連絡先 和地 ひとみ事務所 HP: <http://www.wachi1103.jp>

✉ [wachi\\_hitomi@cocoa.ocn.ne.jp](mailto:wachi_hitomi@cocoa.ocn.ne.jp) 【電話・FAX】 042-516-8546

〒207-0005 東大和市高木3-274-2-102